

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
明治 25年	サケの人工ふ化場（標津鮭人工ふ化場）ができる	
33年		根室町制
40年	芦沢勇吉が100万坪の牧場を営む	
44年	中標津原野（俵橋・中標津原野）に入殖はじまる	根室市街に電気がとおり灯りが点く
45年		元号が7月30日から「大正」になる
大正 元年		
2年	- 中標津神社創設 - 武佐地区入殖はじまる - 俵橋地区に乾定太郎らが学校をつくる	北海道の人口が180万人にのぼる
3年	中標津駅通所ができる	
4年	開陽地区入殖はじまる	
5年	西村武重養老牛温泉の開発に着手	北海道鉄道1,000マイルに達する
6年	俣落地区に入殖はじまる	
7年	上武佐に医師（拓殖医）が置かれる	- 開道50年を迎える - 米騒動がおきる
8年	- 標津と中標津を結ぶ道路が完成する - 中標津市街に巡査駐在所が置かれる - 上武佐ハリストス正教会（標津原野武佐教会）ができる	
9年	中標津小学校が開校	本道人口236万人
10年	厚床と中標津を結ぶ道路が完成する	根室本線全通
12年	- 中標津移住者世話所が置かれる - 武佐中央市街に消防組織ができる - 武佐・開陽地区で乳牛が飼われるようになる	- 戸長役場制度が廃止される - 関東大震災後、本道に移住者増加
13年	当幌地区に入殖はじまる	
14年	- 根室の厚床と中標津間に殖民軌道が走り始める - 武佐地区に集乳工場ができる	
15年	開陽郵便局開局	十勝岳大爆発

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
昭和 元年	計根別地区に入殖はじまる	- 雪印乳業(株)の前身にあたる北海道製酪販売組合連合会創立 - 元号が12月25日から「昭和」になる
2 年	北海道農事試験場根室支場設置	- 釧路と標茶の間に鉄道が走る（釧網本線） - 北海道第2期拓殖計画スタート
3 年	- 計根別市街に上水道施設が完成 - 上標津地区、豊岡地区、協和地区入殖はじまる - 標津から中標津、計根別、標茶までバスが走り始める	
4 年	- 養老牛地区に入殖はじまる - 殖民軌道にガソリンカーが走り始める	
5 年	- 中標津市街に電気がとおり灯りが点く - 武佐郵便局にて電信電話事務がはじまる	
6 年	夏の気温が低く農作物が実らなかった	リンドバーグ夫妻が太平洋飛行中に根室に降りる
7 年	遅い時期に霜が降ったため、農作物に大きな被害があった	
8 年	- 畑作から酪農へ切り替える計画（根釧原野農業開発五ヵ年計画）ができる - 猛吹雪のため各地で死亡者が出る	札幌飛行場ができる
9 年	根室の厚床と中標津を結ぶ鉄道が走り始める	大雪山と阿寒が国立公園に指定される
12 年	標津線（根室厚床—中標津—標津、計根別—標茶）の全てが開通する	
13 年	計根別と養老牛を結ぶ殖民軌道が走り始める（養老牛線）	
15 年	西竹地区入殖はじまる	
16 年	日本陸軍の計根別飛行場の建設がはじまる（位置は別海町）	
18 年	- 日本海軍の中標津飛行場の建設がはじまる - 上武佐ハリストス正教会が託児所を開設	
19 年	中標津畜牛人工授精所開所	昭和新山が噴火活動により隆起をはじめる

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
昭和 20年	- 日本陸軍によって武佐岳のふもとに砲台のある陣地がつくられる - 中標津、計根別に艦載機による空襲があった - 北海道新聞社中標津支局の開設	
21年	中標津村誕生 9,644人	
22年	- 中標津営林署ができる - 中標津中学校が開校	
23年	- 中標津農協、計根別農協、根室生産連ができる - 村立中標津高等学校開校	北海道の人口が400万人にのぼる
24年	- 村立中標津高等学校が道立に移管される - 有線放送のNRKが設置される	支笏洞爺国立公園指定
25年	- 中標津町誕生 11,569人 - 第二俣落地区に戦後の緊急開拓団による入殖が始まる - 中標津高等学校計根別分校開校	- 北海道開発庁が置かれる - 第1回さっぽろ雪まつり開催 - 雪印乳業㈱設立
26年	中標津市街の上水道が完成する	
27年	- 中標津高等学校計根別分校が町立中標津計根別高等学校として独立 - 武佐中学校偏向教育事件 - 中標津農協水力発電所（俣落）が送電開始	- 十勝沖地震の発生（最大震度5） - GHQ廃止
28年	中標津－俣落－開陽－武佐－上武佐間バス運行	国鉄バス（釧根線）が、標茶－西春別－西別を走る
30年	豊岡・協和両地区が中標津町に加わる	道産の牛乳生産量が百万石をこえる
31年	- 中標津－上武佐間で列車が横転する事故がおきる - 財政再建団体の指定を受ける（解除は37年）	- 根釧パイロットファーム開拓事業開始 - NHK札幌テレビ開局
32年	- 海軍飛行場跡で北日本航空が遊覧飛行を行う - 町公民館開設される	根室市制
33年		標津町制
34年	- 北日本航空が中標津－札幌間の定期飛行をはじめめる - 中標津駅前広場からほそう化が始まる	釧路根室間準急ノサップ運行開始

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
昭和 35年	- 融雪災害のため3名死亡 - 中標津町商工会ができる	- 北海道の人口が500万人にのぼる - 道東方面、チリ地震（観測史上世界最大）による津波の被害を受ける
36年	- 開陽台にテレビ中継局が完成 - 中標津警察署開設	- 羅臼町制 - 北海道が米作生産量日本一
37年	開陽台展望館完成	野付風連道立自然公園が指定
39年		知床国立公園
40年	- 開町20年及び空港開港記念式典 - 町民憲章が決められる	別海村乳牛2万頭にのぼる
41年	- 国営開拓パイロット春別（依橋）地区入殖開始 - 全国町村会から優良町村として表彰される	
42年	- 中標津高等学校ラグビー部が国体に出場 - 町立中標津計根別高等学校を中標津農業高等学校へ校名変更	
43年	北海道百年記念中標津体育館ができる	北海道百年記念を祝してイベントが開催された
44年	中標津東小学校が開校	
45年	映画「戦争と人間」、「家族」撮影	
46年	- 現在の郷土館が完成 - 国道272号線の全ての路線が完成	別海町制
47年	町有バス（開陽・武佐線）運行開始	冬季オリンピック札幌大会開催
52年	町の人口が2万人を越える	有珠山爆発（52～53年）
53年	広陵中学校開校	
54年	映画「遥かなる山の呼び声」撮影	
55年	- YS11型機就航（中標津～千歳間） - 現中標津町役場庁舎完成により東7条から移転	- 標津町史跡自然公園開園 - 知床横断道路開通
56年	日本通運株式会社が運んでいた、現金8,000万円が盗まれる事件がおこる	北方領土の日が決められる
57年	丸山小学校開校	
58年	YS11型機着陸に失敗する事故がおこる	札幌市 5大都市入り
59年	学校給食センター完成	
60年	下水道供用開始、終末処理場完成	

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
昭和 62年	・「星空の街」として環境庁から表彰される ・映画「男はつらいよ 知床慕情」撮影	
63年		・青函トンネルが開通
64年 平成 元年	・JR標津線が廃止され、町から鉄道が消える	・元号が1月8日から「平成」になる
2年	・中標津と東京を結ぶジェット機の運行がはじまる ・中標津高等学校野球部甲子園初出場	
4年	・川崎市と友好都市締結 ・ロシアとの初のビザなし交流はじまる ・現在の温水プールがオープン	・初めてYOSAKOIソーラン祭りが開催される
5年	・釧路沖地震の発生（震度5、最大震度6） ・国道272号線（バイパス）が開通 ・武道館がオープン	・南西沖地震の発生（最大震度5）
6年	・東方沖地震の発生（震度5強、最大震度6）により大きな被害を受ける	・アイヌ民族の国会議員が初めて当選する（萱野茂）
7年	・総合文化会館（しるべっと）開館	・本道人口570万人
8年	・中標津高等養護学校（現支援学校）開校	・コンサドーレ札幌誕生
9年	・拓殖銀行中標津支店裏で現金を運ぶ車からお金が盗まれる事件が発生 ・「蛙意匠の土器」中標津町指定文化財第1号に指定	
11年	・現在の町立中標津病院ができる	
12年		・有珠山が噴火
13年	・「根釧台地の格子状防風林」が北海道遺産に選ばれる ・道立ゆめの森公園が全面オープン	・札幌ドームがオープン
14年	・ごみ最終処分場（当幌地区）が完成する	
15年	・NPO法人伝成館まちづくり協議会ができる ・運動公園スケートリンクオープン ・中標津中学校新校舎ができる	・十勝沖地震の発生（最大震度6弱） ・JR札幌駅南口にJRタワーができる
16年	・羅臼町との合併を断念 ・人口が24,000人にのぼる ・「フレスポ中標津」オープン	・北海道日本ハムファイターズ誕生 ・甲子園で駒大苫小牧高校が初優勝する

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
平成 17年	市外局番が「01537」から「0153」に変更される	知床が世界遺産に登録される
18年	- 光回線が開通、ブロードバンド化が加速する - 中標津地区で字名地番改正が実地される	佐呂間町瞬間風速80m前後の竜巻が発生
19年	旧土田旅館が町ではじめての国の登録有形文化財（建造物）に登録される	函館市の遺跡から出土した土偶が国宝に指定される
20年	FMなかしべつ放送開局	- 北海道洞爺湖サミットが開催される - エスポラード北海道誕生
21年	- 旧北海道農事試験場根室支場ほか3棟が、国の登録有形文化財に登録される - 映画「釣りバカ日誌20ファイナル」撮影	「洞爺湖有珠山」が世界ジオパークに認定
22年	- 中標津空港と札幌（丘珠空港）を結ぶ便が新千歳空港に変わる - タワラマップ川親水広場が完成 - 中標津東小学校新校舎ができる	北海道大学の鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞
23年	「中標津町自治基本条例」が定められる	レバンガ北海道誕生
25年	春の猛吹雪で5名死亡	元横綱大鵬（弟子屈町出身）が国民栄誉賞受賞
27年	- 計根別学園が開校（計根別小学校と計根別中学校が名称変更） - 児童センター「みらいる」オープン - 中標津空港にFDA（フジドリームエアライン）のチャーター機が発着するようになる	
28年	中標津町総合体育館（330°アリーナ）開館	北海道新幹線が開業
29年	中標津空港発着の飛行機を利用した初の北方領土特別墓参がおこなわれる	
30年	- 平昌冬季オリンピックの男子スピードスケートに長谷川翼選手が出場 - 平昌冬季パラリンピックのパラアイスホッケーに須藤悟選手が出場 - 男子スピードスケート長谷川翼選手、パラアイスホッケー須藤悟選手に町栄誉賞授与 - ドラマ「遙かなる山の呼び声」撮影	- 胆振東部地震（最大震度7）により道内全域でブラックアウトが発生する - 北海道命名150年
31年 令和 元年	現在の町営テニスコートがオープン	元号が5月1日から「令和」になる

年代	中標津町の主な事柄	道内の主な事柄
令和 2 年		- 新型コロナウイルス感染症が広がり始める - ウポポイ（国立アイヌ民族博物館）がオープン
3 年	- 第 7 期中標津町総合計画スタート - 岩谷学園ひがし北海道日本語学校開校	「北海道・東東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録
4 年	ドラマ「続 遙かなる山の呼び声」撮影	知床観光船沈没事故発生
5 年	- 中標津町ゼロカーボンシティ宣言 - 中標津空港と札幌（丘珠空港）を結ぶ便が12年ぶりに就航 - 広陵中学校新校舎ができる	北海道ボールパーク F ビレッジがオープン